

利用ガイド

9 数えるのって楽しいね！

How many legs does a spider have? Eight.



ポイント：数えるのって楽しいね！

子どもたちでも英語の1から10までくらいなら、たいてい英語で言うことができます。でも私たちが日常で口にする英語の数の発音とネイティブ・スピーカーの発音はずいぶん違います。数を数えるのが大好きな子どもたちは、数字のスキットやゲームを楽しむことで、fやthなどの基本的な英語の発音も自然と身につけていきます。



関連表現・活動

- ・英語で1から10までの数を言えるかな？
- ・動物の脚や建物の階など、身の回りの物の数を英語で数えてみよう。
- ・色々な国の言葉では、1から10までを何と数えるのか調べてみよう。



番組の内容

[スキット1] 1つ足りない！

- ・みんなでたこ焼きを食べることに。でも、マイケルが自分のたこ焼きはみんなより1個少ないと言いました…。

- How many takoyaki do you have?
- Let's count together. One, two, three, four, five, six, seven, eight, nine, ten.
- We have ten takoyaki!

[スキット2] 何人いる？

- ・ユージが不思議な部屋に入ると、大勢のマイケルやジャニカ力がいた！一体何人いるの？

- How many Michaels are there?
- One, two, three, four. Four!
- That's right! There are four Michaels.

[歌のコーナー] "SEVEN STEPS"

- One, two, three, four, five, six, seven.
- One, two, three, four, five, six, seven.
- One, two, three, one, two, three,
- One, two, three, four, five, six, seven.

[ミニ・ユージ] 数のマジック！

- ・ガーナ人のマジシャンを訪ねて、数のマジックを披露してもらおう。英語の数を当てられるかな？

[TVタイム] 生き物の足の数クイズ！

- ・いろいろな動物や昆虫の足の数を、クイズ形式で出題します。

- How many legs does a spider have? / Eight!
- How many legs does a flamingo have? / Flamingo has two legs.



指導上の参考



番組の視点

大人も子どもも、毎日身の回りの物を数えながら生活している。日本から一歩外に出てもすぐに必要となる数であるが、外国語で大きな数を聞き取ったり、計算するためには相当の慣れを必要とする。子どもたちに、簡単な数遊びを通して、数の聞き取りに慣れてもらい、自分でも数えたり、易しい計算をして、数を使いこなしてほしい。子どもたちは英語で数えることをゲーム感覚で楽しんでくれるだろう。



数の言い方

まず、1から10まで、英語らしい発音に慣れさせる。英語で難しいと言われている「音」が含まれている3(three), 4(four), 5(five), 7(seven)などを、ビデオを見ながら繰り返し聞いてみよう。子どもたちの習得の様子から判断して、10以上の数を数えることにしたい。無理をして100まで唱えるように数えることは避けて、数で遊ぶことに主眼を置く。



数えて面白いもの

- (1)教室にある物：ドア、花瓶、辞書、チョークなど
- (2)子どもが身につけている物：ポケット、ボタン、洋服の模様など
- (3)子どもの持ち物：鉛筆、クレヨン、教科書、ノートなど
- (4)教科の種類や、曜日による教科の数
- (5)動物や昆虫などの体の特徴：足、手、目、翼などの数
- (6)スポーツのプレーヤー数

この他にも、子どもが興味を示すものを、何でも数えてみようと促してほしい。

「数える」という単純な活動で、実にいろいろな遊び方がある。単純なのに、子どもも楽しむし、普段英語があまり得意でない算数好きの子どもにも活動の場が与えられる。



活動例A

リーダーが言った数だけ拍手をする。リーダーや先生は、わざと多く叩こうとしたり、少なくして途中で拍手を止めたりして、子どもを引っ掛ける。



活動例B

新聞の折り込み広告などを小さく切って丸めた物を机の上に集めて小さな山を作る。英語の数を歌いながらその周りを歩き、歌の途中でリーダーが大きな声で数字を言う。みんなは、その数を片手でつかむ。言われた数だけ（数に近く）取れた人が勝ち。



活動例C

1～5までの数字を書いたカードを人数分だけ用意する。1枚ずつ配り、歌を歌いながら教室内を移動する。リーダー（先生）が2～10までの数字を言って、ペアを作らせる。数が大きすぎてペアができるないこともある。大きな数字に慣れてきたら、カードの数字を大きくする。
